

2014 年上半期／第 2 四半期 業績発表

2014 年 8 月 26 日

2014 年第 2 四半期は堅調な業績 - 営業は前期比で若干の改善

2014 年第 2 四半期の主要データ:

- 売上高は 3 パーセントの微増 - 価格圧力の減少に伴う好調な販売数量増加
- 調整後 EBITDA は 4 億 7,300 万ユーロ、前年比で下がるも前期比では上昇
- 全部門とも 2014 年第 1 四半期よりわずかながら業績が改善

2014 年上半期の主要データ:

- 売上高は 64 億ユーロの微増
- 調整後 EBITDA は堅調なレベルながら好調だった前年値を下回る
- 調整後 EBITDA マージンは 14.5 パーセント
- 営業活動によるキャッシュフローは 3 億 800 万ユーロへと大幅に高まる
- 調整後純利益は 28 パーセント減の 3 億 6,100 万ユーロ
- 2014 年度の見通しが確認され具体化

エッセン:「2014 年第 2 四半期は、若干上向きとなった経済環境のもと当社製品の需要は世界中で極めて高いものとなりました。当社の事業は、グループ全体で堅調に伸びています」。エボニック インダストリーズ AG のクラウス・エンゲル取締役会長は、本日、グループ全体の 2014 年第 2 四半期および上半期の主要財務データの発表にあたってこう語りました。「全体として、以前の四半期で見受けられた一部の重要製品に関する価格の下落傾向がかなり弱まっているのは明らかです。グループ全部門の収益は、前期比でわずかながら改善しました」。

グループ全体では、2014 年上半期で売上高は微増となりました。業績は堅調だったものの、一部の重要製品の販売価格の低下により、好調だった前年レベルを下回りました。

エボニックは、全体として 2014 年度の見通しを確認して具体的に見極めていきます。

当社は、売上高がわずかながら高まり(2013 年:127 億ユーロ)調整後 EBITDA が 18 億ユーロから 21 億ユーロのレベルになる(2013 年:20 億ユーロ)と依然見込んでいます。

価格面では、これまで明らかだった安定化が今後も続いていくとエボニックは予測しています。一部の事業では、わずかながら価格の上昇傾向がうかがえます。それでも、そうした傾向はこれまでのところ、価格の推移が当初の予測レベルを依然として下回っているスペシャリティマテリアルズ部門にはあてはまりません。このような動向が今年度の残余期間も続いた場合、エボニックは調整後 EBITDA がおそらく 18 億ユーロから 21 億ユーロ範囲の上方レベルではなく下方レベルになると現段階で想定しています。

2014 年上半期の業績

2014 年上半期は、世界経済全体の成長がわずかながら予測を下回りました。世界的成長の上向き傾向は続いているものの、第 2 四半期はさらに加速化する状況が生まれていません。

橋口 公恵
日本におけるエボニック グループ
グループ コミュニケーションズ
マネジャー
TEL 03-5323-7319
FAX 03-5323-7399
kimie.hashiguchi@evonik.com

エボニック ジャパン 株式会社
〒163-0938
東京都新宿区西新宿 2-3-1
新宿モリス 12F

www.evonik.jp

2014年上半期で、当グループの売上高は2パーセントの微増を記録しました。これは販売数量の増加(5パーセントポイント)によるものでしたが、販売価格は下落しています(マイナス3パーセントポイント)。通貨レートの影響(マイナス2パーセントポイント)を考慮した場合、売上高は前期間の64億2,100万ユーロを上回る64億4,800万ユーロにのびりました。

調整後 EBITDA は 16 パーセント減の 9 億 3,600 万ユーロ(2013 年上半期: 11 億 1,500 万ユーロ)でしたが、これは一部の重要製品が販売価格の下落にさらされたからです。そのため、調整後 EBITDA マージンは 17.4 パーセントから 14.5 パーセントに下がりました。

マイナス 7,900 万ユーロの調整は、主に投資プロジェクトの定例見直し後に打ち切られたスペシャリティマテリアルズ部門のプロジェクトと STEAG 持分簿価との関係での再編費用や減損損失にとりわけ関連したものです。マイナス 9,300 万ユーロの前年値は、主にエネルギー効率化とスペシャリティマテリアルズの両部門におけるプラント閉鎖と関係した収益、費用、減損損失がその内訳となっています。

税引前利益(継続事業)は 29 パーセント下がって 4 億 2,400 万ユーロとなりました(2013 年上半期: 6 億 100 万ユーロ)。税引後利益(非継続事業)は、総額 2,100 万ユーロでした。これは、主にリチウムイオン事業に関連しており、基本的には Li-Tec Battery と Deutsche Accumotive の株式を Daimler AG に売却した関係での再評価から発生したものです。

2014 年上半期で、当グループ全体の純利益は 37 パーセント減の 3 億 500 万ユーロとなりました(2013 年上半期: 4 億 8,600 万ユーロ)。

調整後純利益は、継続事業の業績を反映して、28 パーセント減の 3 億 6,100 万ユーロでした(2013 年上半期: 4 億 9,900 万ユーロ)。そのため、調整後の一株当たり利益は 1.07 ユーロから 0.77 ユーロに下がっています。

営業活動によるキャッシュフロー(継続事業)は、2014 年上半期で 1 億 1,100 万ユーロ増加して 3 億 300 万ユーロに達しました。これは、主に正味運転資本増の大幅な鈍化と法人税等の支払減によるものです。非継続事業によるキャッシュフローを算入すると、営業活動によるキャッシュフローは 9,900 万ユーロ増えて 3 億 800 万ユーロでした。

資本支出は、14 パーセント増の 4 億 7,800 万ユーロとなりました(2013 年上半期: 4 億 1,900 万ユーロ)。資本支出の 43 パーセントはコンシューマー、ヘルス&ニュートリション部門に、24 パーセントがスペシャリティマテリアルズ部門に、そして 21 パーセントがエネルギー効率化部門に割り当てられました。

市場での主導的立場を拡大するため、エボニックはアジアでの生産能力増強に新たに乗り出しました。上海(中国)のイソホロン・イソホロンジアミン複合生産コンビナートには、1億ユーロ超の資金を投じています。イソホロン化学誘導品は、例えば重防食塗装の寿命を延ばし、環境にやさしいコーティング技術の促進にも役立っています。タイのラヨーン県では、湿式シリカの拡大生産プラントが稼働を開始しました。東南アジアにおける成長は、主に低燃費タイヤとライフサイエンスの応用事業がその原動力となっています。中国の吉林では、年間 230,000 メートルトンの生産能力がある過酸化水素の新プラントが完成しました。このプラントの製品は隣国の中国パートナーに供給されますが、そこではエボニックと ThyssenKrupp Uhde が開発した革新的プロセスに基づき新たに建設されたプラントでその製品を用いて酸化プロピレンを生産することになります。

2014年6月末時点で、純金融負債は1億5,000万ユーロでした。これは、投資支出の継続と5月に支払われた2013会計年度の配当4億6,600万ユーロがその要因の一端となっています。2013年末時点におけるエボニックの純金融資産は、5億7,100万ユーロでした。

2014年第2四半期の業績

エボニックは、2014年第2四半期に世界中で好調な製品需要を記録しました。以前の四半期で見受けられた一部の重要製品に関する価格の下落傾向は、かなり弱まっています。売上高と調整後 EBITDA はともに前期比でわずかながら上向きとなり、全部門が収益増に貢献しています。

2014年第2四半期におけるグループの売上高は、1パーセント増の32億4,700万ユーロでした(2013年第2四半期:32億900万ユーロ)。エボニックは、販売数量の大幅増(5パーセントポイント)に支えられて3パーセントの微増を達成しましたが、販売価格のわずかな下落(マイナス2パーセントポイント)により相殺される形となりました。通貨レートの影響は、売上高を2パーセントポイント押し下げています。

調整後 EBITDA は、前年値の5億900万ユーロを7パーセント下回る4億7,300万ユーロでしたが、これは主に一部の重要製品の販売価格が下落したためです。調整後 EBITDA マージンは、15.9パーセントから14.6パーセントに下がりました。

2014年上半期の部門別業績

コンシューマー、ヘルス&ニュートリション部門

- 販売数量が増加し、販売価格は下落
- 調整後 EBITDA は前期間の高レベルを下回る
- 2014年上半期の調整後 EBITDA マージンは19.0パーセントの好レベル

コンシューマー、ヘルス&ニュートリション部門は、主に消費財、畜産動物の栄養に関する製品、そしてヘルスケアといった分野で応用されるスペシャリティケミカルを生産しています。この部門は、コンシューマースペシャリティビジネスユニットとヘルス&ニュートリション ビジネスユニットで構成されています。

2014年上半期における同部門の売上高は、5パーセント減の19億8,100万ユーロでした(2013年上半期:20億7,600万ユーロ)。販売数量は若干増えたものの、販売価格の下落と通貨レートの悪影響のためそれ以上に相殺される形となりました。畜産動物栄養用途のアミノ酸への需要は引き続き高まっていますが、超吸収剤は前年同期に記録した高い販売数量に基づく売上高には及びませんでした。調整後 EBITDA は、特に畜産動物栄養用途のアミノ酸を中心とした販売価格の下落と新規生産能力の立ち上げ経費により、26パーセント減の3億7,600万ユーロとなりました(2013年上半期:5億800万ユーロ)。最重要アミノ酸、メチオニンの販売価格は、本年度の初頭以降は安定して推移しています。調整後 EBITDA マージンは、19.0パーセントという好調なレベルでした(2013年上半期:24.5パーセント)。

エネルギー効率化部門

- 需要が大幅に高まり、販売価格は安定
- 調整後 EBITDA はさらに改善
- 調整後 EBITDA マージンは上半期で目を見張る 23.2 パーセントに上昇

エネルギー効率化部門は、環境にやさしくエネルギー効率に優れたシステムソリューションを提供しています。この部門は、インオーガニックマテリアルズ ビジネスユニットとコーティングス&アディティブス ビジネスユニットで構成されています。

2014 年上半期の売上高は、4 パーセント増の 16 億 3,500 万ユーロとなりました (2013 年上半期: 15 億 7,200 万ユーロ)。販売数量の大幅な伸長は、販売価格が若干下落し通貨レートの悪影響を被ったため相殺されています。とりわけ、シリカとシラン関連事業は、タイヤ業界の高需要により極めて好調な業績を維持しました。コーティングス&アディティブス ビジネスユニットは、販売数量の大幅増を達成することができ、自動車や建設業界からの高需要で恩恵を受けています。調整後 EBITDA は 10 パーセント増の 3 億 8,000 万ユーロ (2013 年上半期: 3 億 4,600 万ユーロ) となりましたが、これは主に販売数量が増えたためです。調整後 EBITDA マージンは、22.0 パーセントから 23.2 パーセントへと高まりました。

スペシャリティマテリアルズ部門

- 販売数量が大幅に高まり、販売価格は下落
- 調整後 EBITDA は前年比で下落
- 調整後 EBITDA マージンは上半期で低レベルの 23.2 パーセントに減少

スペシャリティマテリアルズ部門の中心は、主にゴム・プラスチック業界向けとなるポリマー素材や中間体の生産です。この部門は、パフォーマンスポリマーズ ビジネスユニットと工業用化学品ビジネスユニットで構成されています。

この部門の売上高は、販売数量の大幅増により、2014 年上半期で 2 パーセント増の 23 億 5,000 万ユーロとなりました (2013 年上半期: 22 億 9,900 万ユーロ)。その一方で、売上高の伸長は特にブタジエンを中心とした販売価格の下落で抑制されています。C₄ ケミストリーのほぼ全製品、ポリアミド 12 製品とメタクリル酸塩でも、さらに需要増が見られました。調整後 EBITDA は、主に販売価格の下落が要因となり、28 パーセント減の 2 億 2,400 万ユーロとなっています (2013 年上半期: 3 億 1,000 万ユーロ)。調整後 EBITDA マージンは、13.5 パーセントから 9.5 パーセントに下がりました。

サービス部門

サービス部門は、主に化学部門とコーポレートセンター向けのサービスを提供していますが、社外へのサービスも手がけています。

2014 年上半期における売上高は、3 パーセント増の 4 億 4,900 万ユーロとなりました (2013 年上半期: 4 億 3,700 万ユーロ)。2014 年上半期の調整後 EBITDA は、2013 年上半期の 1 億 700 万ユーロから 2 パーセント減となる 1 億 500 万ユーロでした。

2014 年の見通し

世界的な経済背景を見渡した場合、今年度上半期の成長は当初の予測よりもいく分劣るものの、2014 年は通年で全世界での成長がわずかながら上向くものとエボニックは依然として予測しています。しかしながら、世界経済における緩やかな回復は、新興市場の構造的課題の増大と政治的紛争や軍事衝突の継続に端を発した不確実性により影響を受けています。需要増は期待されるものの、2013 年に見られた生産者価格の下落が 2014 年にすべてのエンドユーザー業界で反転することはないと思われれます。

全体として、エボニックは 2014 年の見通しを確認し、具体的に見極めていきます。

当社は、売上がわずかながらも増加し(2013 年: 127 億ユーロ)、調整後 EBITDA が 18 億ユーロから 21 億ユーロのレベルになる(2013 年: 20 億ユーロ)と依然として見込んでいます。

販売数量の拡大傾向は、最初の成長投資が完了するため、それが下支えとなり続いていくはずですが、価格面では、これまで明らかだった安定化が今後も続いていくとエボニックは予測しています。一部の事業では、わずかながら価格の上昇傾向がうかがえます。それでも、そうした傾向はこれまでのところ、価格の推移が当初の予測レベルを依然として下回っているスペシャリティマテリアルズ部門にはあてはまりません。このような動向が今年度の残余期間も続いた場合、エボニックは調整後 EBITDA がおそらく 18 億ユーロから 21 億ユーロ範囲の上方レベルではなく下方レベルになると現段階で想定しています。

コスト面では、On Track 2.0 効率性向上プログラムでさらに改善が見られるはずですが、それに加えて、エボニックでは管理体制の効率化を目指して 2013 年秋に導入された Administration Excellence という新たな取り組みでも好影響が初めて現れると予測しています。一方マイナス要因としては、成長投資のために増加した費用や為替レートの影響、原油価格の高騰などが挙げられます。

エボニック グループ：損益計算書（抜粋）

(単位：百万ユーロ)	2014年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減 (%)	2014年 上半期	2013年 上半期	増減 (%)
売上高	3,247	3,209	1	6,448	6,421	0
調整後 EBITDA	473	509	-7	936	1,115	-16
調整後 EBIT	322	364	-12	638	828	-23
調整	-51	-63		-79	-93	
純金融費用	-59	-68		-135	-134	
税引前利益（継続事業）	212	233	-9	424	601	-29
法人税等	-70	-80		-133	-165	
税引後利益（継続事業）	142	153	-7	291	436	-33
税引後利益（非継続事業）	-	35		21	42	
税引後利益	142	188	-24	312	478	-35
非支配持分	3	-5		7	-8	
当期純利益	139	193	-28	305	486	-37
調整後当期純利益	174	194	-10	361	499	-28

前年度の数値は修正後のものです。

事業部門別の業績

(単位：百万ユーロ)	第2四半期売上高			第2四半期調整後 EBITDA		
	2014年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減 (%)	2014年 第2四半期	2013年 第2四半期	増減 (%)
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	1,003	1,049	-4	188	227	-17
エネルギー効率化	830	801	4	191	174	10
スペシャリティマテリアルズ	1,174	1,129	4	112	128	-13
サービス	220	210	5	54	53	2
その他の事業	20	20	0	-72	-73	1
グループ全体	3,247	3,209	1	473	509	-7
(単位：百万ユーロ)	上半期売上高			上半期調整後 EBITDA		
	2014年 上半期	2013年 上半期	増減 (%)	2014年 上半期	2013年 上半期	増減 (%)
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	1,981	2,076	-5	376	508	-26
エネルギー効率化	1,635	1,572	4	380	346	10
スペシャリティマテリアルズ	2,350	2,299	2	224	310	-28
サービス	449	437	3	105	107	-2
その他事業	33	37	-11	-149	-156	4
グループ全体	6,448	6,421	0	936	1,115	-16

前年度の数値は修正後のものです。

エボニック グループの事業部門別社員数

	2014年6月30日	2013年12月31日
コンシューマー、ヘルス&ニュートリション	7,059	7,150
エネルギー効率化	5,984	5,854
スペシャリティマテリアルズ	6,333	6,268
サービス	12,185	12,192
その他事業	1,421	1,531
継続事業	32,982	32,995
非継続事業	186	655
グループ全体	33,168	33,650

エボニック インダストリーズについて

ドイツのクリエイティブな産業グループであるエボニックは、スペシャリティケミカルの世界的リーダーです。私たちの活動はヘルス・ニュートリション、エネルギー効率化、グローバリゼーションといった世界のメガトレンドに集中しており、企業の有益な成長と企業価値の増大は私たちが目指す戦略の大事な根幹となります。エボニックは革新的なプロセスと統合的な技術プラットフォームを強みとしています。

エボニック インダストリーズは世界100ヶ国以上で活動しており、2013年度は33,500人以上の社員を有し、総売上高は127億ユーロ、EBITDA(金利・税金・償却前利益)は20億ユーロを計上しました。

免責事項

このプレスリリースに記載されている見通しや期待、または将来の予測に関する記述は、既知または未知のリスクと不確実性を含む可能性があります。実際の結果や発展は事業環境の変化により異なる場合があります。エボニック インダストリーズ AGはこのリリースに含まれる見通し、期待、記述に関して、更新の義務を負いません。

(このプレスリリースは2014年7月31日にドイツで発表されたものの翻訳版です)